

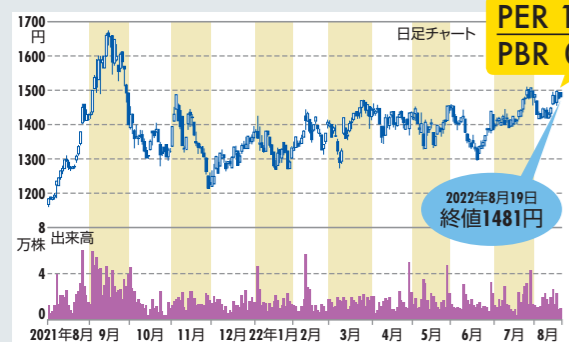
IR DATA

※各データは
2022年8月19日時点

株価

好調な業績と安定配当で
レンジの上抜けに期待したい

PER 10.4倍
PBR 0.61倍



株価は1300円台～1400円台のレンジで推移しているが、最新決算では通期予想を上方修正。下限60円という安定配当の発表もあり、レンジを上抜ける要因は多い。

業績

第1四半期の決算発表で
23年3月期の通期予想を上方修正



業績(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益(円)	1株配(円)
2017年3月期	20.3	12,499	624	748	△84	△8.55
18年3月期	21.3	12,022	755	883	755	76.74
19年3月期	22.3	15,109	1,698	2,022	1,582	161.60
20年3月期	23.3	16,500	1,500	1,800	1,400	143.01
21年3月期						
22年3月期						
23年3月期(予想)						

2022年3月期は、ゲーム機市場向けが堅調に推移し増収増益。最新決算では通期予想も上方修正。半導体不足や資源高騰など不安要素はあるものの、業績は概ね安定している。

配当

1株あたりの配当金を
下限60円に設定!

利回り
4.1%



2022年3月期に1株あたりの配当金を60円に引き上げ、26年3月期まで下限60円を発表。創立80周年にあたる25年3月期には記念配当も検討中だ。

※2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しているため、17年3月期と18年3月期は、株式併合を考慮した金額となっている。

Company profile

帝国通信工業株式会社

神奈川県川崎市中原区荻宿45-1
Tel.044-422-3171
https://www.noble-j.co.jp/

行えるだけでなく、工場で使用
する生産設備や治具もすべて自
社で企画、設計するため、お客
様のハイレベルなオーダーや、
多品種少量のオーダーにも柔軟
な対応ができます。また、それ
ができるからこそその提案力も当
社の強みだと考えています」

**新規事業領域にチャレンジ
「新生NOBLE」へ進化**

2010年以降、AV機器分
野で大きな変化が起こる。スマ
ートフォンの普及により、デジ
タルカメラやビデオカメラの売
行きが減速したのだ。同社にと
ってこれは大きな危機だった。

「これまでは、可変抵抗器とい
えば『NOBLE』というイメ
ージが定着していました。です
が、今後は新規事業領域を模索
し『新生NOBLE』への転換
を図る必要があります。そこで
昨年、25年度までの中期経営計
画を策定し、「抵抗器のNOBLE
Eから新生NOBLEへの深化
と進化」を長期ビジョンに掲げ、
新たな取組みを進めています」
と羽生社長。

チャレンジする新領域は、「医
療・ヘルスケア」や5Gなどの
「通信」分野。そこで活躍する
技術が「センサー」だ。

例えば、フィルム印刷技術を

使った「ディスプレイザブル電
極」。心電図検査などで使用さ
れる生体センサーで、医療機器
分野の市場拡大を狙う。

また、抵抗式センサー開発に
も力を入れている。位置や角度
を検出することができる技術で、
ドローンのコントローラーやロ
ボットの関節の動きに活用。産
業用ロボットなどの市場拡大を
狙う。さらに、水位センサーな
どインフラ、通信、防災、公共
事業分野への参入にも取組む。

「21年度の中計第1ステップは
『既存領域の拡大』を掲げ、概
ね達成できました。22・23年度
の第2ステップでは、『新領域等

への投資』を掲げています。こ
れまで培った技術を活かし、新
しい市場の開拓を積極的に押し
進めます」

中計では株主還元方針も明記。
1株あたり配当
金を下限60円と
することを発表。
さらに、創立80
周年にあたる24
年度には、記念
配当も検討して
いるという。

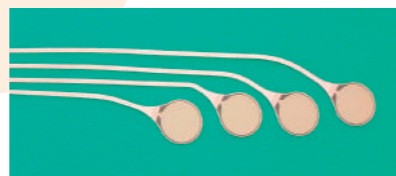
新生NOBLE
Eを掲げる帝国
通信工業の挑戦
は、注目だ。



新規事業領域の要は
多彩なセンサー技術

位置や角度を検出
するセンサー技術
を、ロボットの関節
やドローンのコント
ローラーに活用。

フィルム印刷技術を使
った「ディスプレイザブル電極」。心電
図検査などで使用さ
れる生体センサーだ。



フィルム基板がベースのユニット電子部品

薄く柔らかなフィルムに
回路パターンを印刷した、
独自の「フィルム基板」。



ゲーム機のコントローラーに
も同社のユニット部品が。高
い耐久性を備えている。

帝 国通信工業は、「NOBLE
E」ブランドを展開する
総合電子部品メーカーだ。19
44年8月に、無線通信機部品
の専門メーカーとして、東京芝
浦電機（現・東芝）、日本電気
日本無線などの共同出資によ
って設立。創業当時より、電気
の流れを制限・調整する可変抵抗
器の製造を行っていた。

終戦とともに家電などの部品
製造が事業の中心となり、私た

ちの生活により身近な機器の電
子部品メーカーとなる。

**時代が求める電子部品を
高度な技術で作りあげる**

「帝通は電子部品の製造とサ
ービスを通して、世界のお客様
に満足して頂ける仕事をいつも
提供し続けることにより、豊か
な社会の実現に貢献します」と
いう企業理念のもと、創業以来、
時代や市場のニーズを的確に捉

えながら、付加価値の高い電子
部品を世に送り出してきました
」と羽生満寿夫社長。

その言葉どおり、高度経済成
長期の60年代には、カラーテレ
ビの普及に伴い、可変抵抗器や
スイッチなどの電子部品の需要
が拡大し、事業は急成長。70年
代にはアマチュア無線ブームが
起り、CB無線機に関連する
電子部品のニーズが増えた。

「80年代には、フィルムに回路

**設計、製造、組立などを
すべて自社で請負う**

同社にはさらに大きな強み
がある。独自のフィルム印刷を
コア技術として、顧客の要望に
即した製品設計から開発、精密金
型の設計・製造、加飾・成形・
プレス加工、組立、検査、梱包
まで、すべて自社一貫体制で対
応できることだ。

「受注から納品までを短期間で

株主還元積極的な企業を探せ!



自動車やゲーム機の 電子部品を製造 センサー技術で 新領域へ挑戦する

帝国通信工業

東証プライム
証券コード: 6763

「NOBLE」ブランドの各種電子部品を国内外で展開する帝国通信工業。家電やゲーム機、自動車といった既存領域を拡大させつつ、「新領域等への投資」をテーマに新たな挑戦を続けている。その狙いを羽生満寿夫代表取締役社長に聞いた。

自社一貫体制は創業時から。 ものづくりが好きなんです



帝国通信工業 代表取締役社長
羽生満寿夫 (はにゆう・ますお)
1977年帝国通信工業入社。生産技術部門を中心に、
一貫して製造畑を歩む。2019年6月より現職。

パターンを印刷する、薄く、軽
く、しなやかなフィルム基板を
開発。スイッチや抵抗器などを
組合わせたユニット電子部品の
提供を開始しました。90年代に
は、小型のビデオカメラやデジ
タルカメラに、フィルム基板を
使った操作ユニットが組込まれ
るようになり注文が急拡大、海
外の生産拠点も増やしました」
現在では、家電や自動車、ゲ
ーム機のコントローラーなどに
同社のユニット電子部品が使わ
れており、今後も既存領域の拡
大を図っていく。